

講習No.
SH11
選択必修

【選択必修】国際理解教育

講習の開催地

宇治キャンパス

講習の期間 **平成28年11月19日(土)** 受講料 **6,000円** 対象職種 **特定しない**

定員	時間数	試験方法	担当講師	松田 凡(総合社会学部総合社会学科教授) 杉本 星子(総合社会学部総合社会学科教授) 澤 達大(総合社会学部総合社会学科准教授)
55人	6時間	筆記試験		

主な受講対象者 中学校・高等学校教諭

講習の概要

従来より、「総合的な学習」や「社会科」などの授業を中心に、各校で国際理解教育や異文化教育が実践されてきた。しかし、国際化や多文化化が今後さらに進展していく中で、外国籍生徒への対応などの場面で、新たな対応能力を求められることが予想される。本講習では、国際理解教育の実践例を幅広く紹介し、多国籍化が進む地域の多文化共生の現状と課題をさぐる。さらにフォトランゲージにより、国際理解教育の手法の認識を深める。

1限 9:00~10:20(80分)	2限 10:30~12:00(90分)	3限 13:00~14:20(80分)	4限 14:30~15:50(80分)	5限 16:00~16:30(30分)
国際理解教育の現状 1974年のユネスコ勧告の採択以降、国際理解や国際協力、国際平和のための教育は、総合的な学習などで取り組まれてきた。近年は、多文化教育やESD(持続発展教育)など、その教育は多岐にわたっている。本時では、国際理解教育の概要を把握し、現状を理解していく。	〈仮題〉多文化共生社会の現状と教育現場 日本に暮らす外国人が増加し、その国籍も多様になっている。幼稚園や学校には、外国にルーツのある児童の教育とともに、たとえ国籍や文化が異なっても、誰もが暮らしやすく地域住民の一員として活躍できる多文化共生の地域づくりの拠点となることが期待されている。そうした教育現場における取り組みと課題について、ワークショップを通して考える。	〈仮題〉異文化理解の方法Ⅰ～フォトランゲージを体験してみる 開発教育・国際理解教育の手法の一つに「フォトランゲージ」がある。これは世界各地の写真やイラストを使って、参加者がその背景にある状況や意味を読み取り、気づきや発見を共有することを通して、異文化理解を進めるものである。まずはこれを体験してみる。	〈仮題〉異文化理解の方法Ⅱ～フォトランゲージを極める 「フォトランゲージ」は楽しく簡単なゲームである一方、やり方次第では異文化に対する先入観や思い込み、驚きや発見を引き出す高度な認知的作業でもある。グループ・ディスカッションを通じて、これをさらに精緻化するファシリテーションの方法を探る。	修了認定試験